

【表紙】
少年悲歌 全四卷

【裏表紙】
(十六ミリ)
少年悲歌

全四卷 四七八米

台湾総督府 ○第三五七号

検閲済 有効期間

自昭和拾六年三月七日

至昭和拾九年三月六日

障害ナシ

【1頁】

【2頁】

少年悲歌 全四卷

梗概―

或る山間の平和な村に孝一と呼ぶ親孝行な少年があつた。フトした事で父を失つた孝一は苛酷な叔父勘兵衛の許で養育される事となつた。孝一は片輪だつた。その為仕事もおくれ勝ちなので叔父の叱責に毎日悲しい日を送つていた。これを慰めてくれる者、それは親切な馬方、三助与吉の二人だつた。孝一は二人に励まされて一生懸命に勉強した。それで学校は何時も優等だつた。校長先生は受持の浜口先生と相談して他の先生方から義金を募つて孝一の片輪の手を癒してやらうと決心された。恩師の情で手術を受けに孝一は一生先生方の御恩は忘れませんとかたく誓つた。そして叔父の苛酷な鞭もこの手さへ癒れば懸命に働いて恩返しをしやうと耐え忍んだ。雪解けの頃孝一の手は完全に癒つたと同時に叔

【3頁】

父も先生方の尊い御心や孝一のいぢらしい心根に心を改めた。それから後の孝一は今迄とは打つてかはつた幸福の日をおくることでせう― 完

字幕―

少年悲歌

総指揮 マキノ正博

原作脚色 神谷京太郎

監督 三上良三

撮影 石野誠三

役と人

高田孝一 — 都賀一司

【4頁】

その父杉作 — 都賀清司

叔父勘兵衛 — 平野仙造

馬方 与吉 — 柳妻麗三郎

〃 三助 — 加藤弘郎

お島 — 毛利安子

三太郎 — 水谷春之

校長 先生 — 若稻文男

浜口 先生 — 市川米十郎

1. 日曜日—その日は子供達にとつて楽しい一大国である
2. 〃 敵軍見えたり突貫！突貫！”
3. 〃 たとへ少人数といへど我々は日本軍だ！”

【5頁】

4. 〃 三太郎！三太郎！”

5. 〃 何時も餓鬼大将になつて学問はおろか家の手伝ひはしたことはなし……”

6. 〃 孝行者の孝一さんを見習へ！”

7. 〃 朝は早うから蜷籠商に山坂越えて町から町へ—

8. 〃 夜は一生懸命勉強し ほんに孝ちゃんは感心な子だのに—”

9. 〃 アッ！孝ちゃんだ”

10. 〃 今日はどうしたもんか売行きが悪いの”

11. 〃 おばさんが皆んな買って上げよう”

【6頁】

12. 〃 ありがたうこれで今晚もお父さんが「みんな売れた」って喜んでくれるんだもの”

13. // 売残して帰ると「一生懸命気張ってるのに可哀想に……」って心配するんだよ”
14. // これはお前が買ったのか”
15. // 孝一！すまないなあ 俺はきつと罰があたりやうよ……”
16. // 遊び盛りの年頃のお前ぢや玩具やお菓子も買ひたからうに……”
17. // 僕 学用品が一番大切なんだもの……”
18. // 俺アのために汗水流して働いてくれるお前の姿を……”

【7頁】

19. // さぞやお母アがくさばのかげで伏し拝んで泣いて居よう”
20. // 何時も浜口先生に「稼ぐに追ひつく貧乏なし」って教へられてるんだよ”

21. 冬

第一巻終

第二巻

1. // この寒いのに毎日姿を見掛けるが今日は売れたのかな？”
2. // 小父さんも少し買ってあげよう 早く帰ってお休みな”
3. // その右手はどうしたんだい？”
4. 小さい時分悪戯ナイタをしてやけとをしたので”

【8頁】

5. // 家に病人でもあるのかい？”
6. // お父ちゃんが止めるけど僕働くのが大好きなんです”
7. // あったかい物でも買いなさいよ”
8. // 杉作爺さんが役場の家根修繕中に足場を踏みはずして……”
9. // 元気な若者なら兎も角何分年寄りのことだから……”
10. // 孝一！孝一！”
11. // お父ちゃん！お父ちゃん！”
12. // お医者さん お父ちゃんを何卒助けて——”

【9頁】

13. // 願ひだ 立派な偉い人になつて――
14. // 孝一を――孝一を頼む”
15. // 儂がしかと預るから安心しろよ”
16. // 死んぢやいやだ！死んぢやいやだ！”
17. A // 斯くて孤独に忍び泣く孝一は叔父“勘兵衛”のもとで養育
されることになつたが――

B // 朝から晩まで本ばかり読んでゐやあがるから仕事が手につかねえのだ”

C // 学者の子ぢやああるめえし手前の様な親無し子は学校を止めて働く事も覚えやがれ”

18. // 孝ちゃんは学問が好きでいゝなア”

タチ

19. // 俺等の様に一生馬方で暮らす人間と性質が違ふんだ
孝ちゃんは出世するぜ”

【10頁】

20. // そんなに学校つて面白いかい？”
21. // 学校へ行くと先生やお友達が可愛がつて呉れるからお父ちゃん
22. // 他人でさへも親切にして呉れるのに此処の親方は・・・”
23. // 朝から晩まで本ばかり読んでゐやあがるから仕事を手につか
ねえのだ”

24. // 学者の子ぢやああるめえし手前の様な親無し子は学校を

止めて働く事も覚えやがれ”

// 偉者になつてお呉れ 俺が応援するぞ”

第二巻終

【11頁】第三巻

1. // 登校前の仕事が終わつて――”
2. // 今戻つたの？”
3. // 届け先の店で少し手間取つたもんだから”
4. // 早くおいでよ今日はいつもより少しおそいよ”
5. // 今日は偉い人がみんなの勉強振りを見に来なさるさうだが
ら早くおいでよね”
6. // オイ 手入れして行けよ――”

(1)俺が代つてやるよ早く行きな (2)その日の放課後□

(3)この学校の模範となるべき生徒とは？

(4) この浜口君の遅刻で四学年の高田寿一はこの校の最も誇りとする模範生とでございます

(5) 浜口か菱岡の力が大いにあると思いますが

(6) □□□□□□は□□□□家で村でも評判の優秀な少年□□

(7) 早く□□□□□□にお伝へして□□の手続を取りませう

7. 数日の後―

【12頁】

8. “浜口君―”

9. “孝一君をあのまま成人さすのは惜しいと思ふが・・・”

10. “聞けば過程に複雑な事情がある様だが教員諸君から

義金を募って―”

11. “私も機会がありましたら個人としても治してやりたいと思っております”

12. “外科の手術で有名な河島博士に診察して戴いたら案

外容易に・・・”

13. “明日は幸ひ俸給日だから金を集めて御苦労ちやが河島

病院へ連れて行って呉れ給へ”

【13頁】

14. 恩師の情―

15. “手術には困難ですが骨の方には別条ありませんから・・・”

16. “三週間程で自由な手になりますよ”

17. “お前その手はどうしたんだい”

18. “学校で・・・”

19. “馳けつくらに転ころんで少し怪我を・・・”

20. “道草食って悪戯ばかりしてゐやがるから天罰が当たった

んだ”

21. “片輪の上に片輪になりやがって―”

【14頁】

22. “手前見たいな穀潰しはこの家には置かねえ”

23. “出て行け!”

第三巻終

第四巻

1. // 先生!“
2. // 親方もあんまりだ“
3. // この手の自由さへ利いたら・・・“
4. // 叔父さんに叱られる様なことはないだろうに・・・“

【15頁】

5. // 俺等が謝ってやるから・・・“
6. // 斯くて雪解けの頃“
7. // すっかり治ったんだね“
8. // お医者からの戻り道で・・・“
9. // 先生 御恩は決して忘れません“
10. // 決してこの事は口外せずに人が尋ねたら怪我をしたと言ふんですよ“

11. // 先生つてありがたいもんだなア“

12. // 天道様の目に狂ひはねえみんな孝ちやんの心掛けがいゝからだ“

【16頁】

13. // これからはどんな仕事でも出来るし叔父さんにも勢一杯□せるから僕嬉しいよ“
14. // そして 叔父さんに御恩返しをするんだ“
15. // 赦してお呉れ儂は何たる大馬鹿者だったろう“
16. // 孝一！儂は生れ変わった叔父さんになって立派にお前を育てゝやろう“

17. 卒業式の朝 勿論孝一少年も表彰される日
だった

18. // この手は先生のおかげで立派に使へる様になりました これは
先生の手です“

【17頁】

19. // 僕！もつとく勉強して偉い人になつてきつと御恩返し
を致します“
20. // 孝一君!“
21. 仰げば尊し我が師の恩
教への庭にも早や幾年
思へばいととし此の年月

22.

今こそ別れめいざさらば

互ひにむつみし日頃の恩

別るゝ後にもやよ忘るな

身をたて名を上げやよ励めよ

今こそ別れめいざさらば

23. 少年悲歌 終

【データ採録者：高崎祐太郎】【校正：森田健嗣】